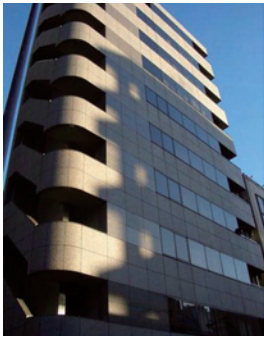


関東支店の引っ越し



オリジンの関東支店が6月27日に、今の千代田区外神田から台東区に引っ越しすることになった。所在地の名前のイメージからすると都落ち(?)だが、実際は従来も道一本挟んで台東区だったし、現在地から5分と離れていない昭和通り沿いの瀟洒な(?)ビルだ。移転する理由の第一はやはり3月11日東日本の大地震で、築40年以上の現在のビルの揺れが激しく、皆が不安を持った事。また従来は40坪づつ、2フロアーにわかれ、3階のタクシーサイト、タクシーアシスト、サポート部と7階の営業部門の間に壁が出来がちであり、ワンフロアーにしたかった事。さらにコストダウンの為である。丁度近くに比較

的新しいビルで、坪数も58坪と、狭くはなるが、許容範囲のミハマビルがみつかり、賃料も従来よりは抑えることができた。さて事務所引っ越しとなる準備が大変である。私は実は何もしないが、それでも自分の部屋の片づけはしなくてはいけない。全体が狭くなるので、それに応じて自分の領分(?)も狭くなり、両袖机1個と本棚が2個まで与えられることになったが、今の三分の一の広さになる。当然今ある本は新事務所に入らず、東京の自宅に持ち帰ることになった。引越屋さんの用意した箱に詰めていくと、何と60箱になりそう(未だ詰め終わっていない...)。思わず、周囲の白眼をよそに、調子に乗って、本を買い集めたことに後悔の念。

よく女性の社員に言われる「社長、この本、皆読んだんですか?」私は答える! 「この本、全部読んでいたら、僕は今頃会社を首になってるよ! 僕が本を買うのは読むためでなく、蒐集の為に面白そうな本を自分の物と

清野吉光氏のコラム 第31回

団塊 耕 志 録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

「失う事の恐れ」

し、書棚に並べて、いつか読んでやろうと眺める事、それ自体が無上の喜びだ!」と説明するが、怪訝な顔をされるばかりである(さすがに社長だからこの人アホかとは思われないが、内心そう思われているかも知れない...)。

この本に対する蒐集癖は中学生以来であり、すでに大学の頃にはその蒐集数が六〇〇〇冊(といっても数えた事はないのだが)位に達していた。しかし26歳の頃、ある事情でそれまでためた本のすべてを一冊残らず失った。ところが不思議な事に、この失った本に何の未練も感じなかった。それどころではなかったという事もあるかも知れないが、本のみならず、すべての物財を失って、ゼロからタクシー乗務員として出発した。しかし本への蒐集癖は依然として健在だったという訳である。本は自分にとって人間と世界の象徴であり、それを知りつくす最も有効



な手段に思えた。もちろんテレビやラジオや映画など色々な情報媒体はあるのだが、書棚に並んだ書籍群には敵わない。背表紙に並ぶ書名をみながら、自分の今の関心に合わせてすぐページをめくれる! その時にそなえて、今はまだ読めずとも、膨大な書籍群が必要なのである! かくして、きつと一生かかっても読めるはずの無い本が次々と購入され、そして書棚を埋めつくなり、そして背表紙さえ見えない積んどく状態に陥り、家内や女子社員の渋面とあきれ顔を招く。自分でも愚

かと思いつつ、止められない。私にとって本はそれほど魔力があるが、恐らく、蒐集家と言われる人にとっては、皆蒐集品はそれがどんなガラクタダろうと、そうした魔力を持っているのだろうと思う。しかし実は蒐集対象そのものに魔力があるのではなく、蒐集している人自身がその中に何かの物語を発見してしまったからだと思う。「生きる」とは自分の物語をつくること」とは臨床心理学者河合隼雄氏の言だが、蒐集の中に自分の物語をつくる事が出来る人は、その物語が社会的に適切かどうかは別として、幸せな事なのかも知れない。したがって私も幸せな人生を送っているという事になる。(周囲の迷惑を顧みず…)

失う悲しみ

これほど執着して集めた本を失う事は、きつと悲しい事だと思ふ。私も、この際本を処分したらという周囲の冷たい(と思われる)視線から逃れて、会社のオフィスに溜まり過ぎた書籍

を東京の狭い自宅に持ちこもうとあがいている。すでに清水に持っている家内からは、冷たく宣告されている。自分自分は寝る場所も削って、本を置く場所確保にアクセクするのだろうか、ふと思ふ。もしかしたら、自分にとって本当に必要なものは10冊、あるいはもつと必要なものも足りない。自分にとって必要なのは本そのもので無く、本を通じた自分の物語ではないのだろうか？昔、それまで集めたすべての本を失ったが、不思議に悲しくなかった。それは本を失う結果になったが、自分なりの物語を刻んだ手応えみたいなものがあつたのかも知れない。失う悲しみは人にとって普遍的なものだが、失う事を恐れることよって、人はしばしばもっと大事な物を失ってしまった事がある。名誉や地位やプライドや物財を失う事を恐れることよって、もっと大事な人の信頼を失い、自分の良き物語を失い、人生の意味を失ってしまう事

がある。経営学者の伊丹敬之氏が言うことに、『人は基本的に「性善」ではあるがしかし「性弱」でもある。』生まれながらに悪意のある人はいないし、「生」は「善」に本質的に繋がる。しかしまた「性」はしばしば「弱」でもある。特に「失う悲しみ」を味わった人ほど「失う」事を恐れる。原初的な人間関係の基である「母子関係」の中で母の愛を満喫できなかった人は、愛の喪失を極端に恐れる。社会的な規範の基である「父子関係」を味わえなかった人は規範への距離感を欠く。人は失う事の恐怖から自由になることよって、「性弱」を越え、「性善」を実現できるのではないのだろうか？



自分も含め、「失う事から自由になる」なんて事は簡単ではないし、それができないから人間だとも言えるのだろうけど、しかし、個々の生きざまを決せねばならない場面で、自分は何を失う事を恐れ、結果何を失う事になるのかをよく考え抜かねばならないと思う。その場しのぎの要領の良い対応に終始してしまうと、心の奥の自分自身の真の声が届かなくなってしまう。最近ポッドキャストで知った、リンカーンの言葉が非常に印象的だ。

「すべての人を一時的にだますことはできる。一部の人を永遠にだますこともできる。しかし、すべての人を永遠に騙すことはできない」。世の中、様々な意見が対立する中で、何が本当なのかわからない事が多い。しかし、時間と世間という強力なりトマス試験紙にかけてみれば、自ずと結果が見えてしまう。我々はどうか？そして、あなたはどうか？

(2011年6月22日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器

# ALC-miniⅢ

¥83,000より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！  
吹き込む・測定する・記録する、の  
カンタン3ステップアルコール測定！

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込みお問い合わせ **株式会社 システムオリジン** Tel.03-3834-8352  
関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。(事業用自動車総合安全プラン 2009)

## 義務化に向けて 備えの1台です!

息を吹いて下さい。

製造元 **TD 東海電子株式会社**  
http://www.tokai-denshi.co.jp